

若年者への接種は感染よりも危険

感染者数が連日増えていることを誇張し「正しく恐れる」ための情報を提供しない報道に対する違和感について、91号の本欄に記した。残念なことに、1年たった現在も COVID-19 に対する報道姿勢は変わらず、「感染者数〇〇〇人と過去最多、先週の同じ曜日より多くなっています」と感染者数の増減ばかり連日報道しています。そしてこの感染者数を減らすには、自粛による3密回避とワクチン接種を増やすしかない、感染者数の多くを占める20代、30代の若年層にもワクチン接種を進めていくべきという報道です。またワクチンが原因と判明した死亡は0という厚生労働省による発表を安全性には問題ないと解釈し、接種後の死亡数やその詳細、およびワクチン接種自体の問題点に関する報道は極めて少ない状況です。

高齢者の75%、日本人全体の28%が2回の接種を終えた時点（2021年7月30日まで）での、COVID-19陽性者の死亡者数（同年7月28日まで）13,200人の内訳は10歳未満と10代0人、20代9人、30代29人、40代116人、50代317人、60代990人、70代以上11,422人と死亡者の多くは70代以上で、若者の死亡者数は極めて少ない状況です。

一方、ワクチン接種後の死亡者数（同年7月16日まで）751人の内訳は20代6人、30代4人、40代9人、50代12人、60-64歳14人、65歳以上の高齢者が707人。65歳未満で接種した人の割合は人口のおよそ7%でその多くは医療従事者ですが、その7%でこれだけの接種後の死亡者が報告されています。

このまま若年者のワクチン接種の割合が増えると、接種後の死亡者数のほうが今までのCOVID-19陽性者の死亡者数より多くなってしまいます（本誌〇〇頁に詳細あり）。もちろんワクチン接種後の死亡については必ずしも全てがワクチンによるものとは限りません。しかし、本誌で分析しているように、ワクチンによる害反応である可能性は高く、特に若年者では感染による死亡よりワクチンにより死亡する危険性のほうが高いと考えられます。

国やメディアは感染者数を減らすことが最優先としてワクチン接種を全国民に勧めるのではなく、COVID-19の特徴を踏まえ、重症化する患者層に手厚く医療が施せるよう、また感染しても軽症または無症状である若年層には感染するよりも害を及ぼす危険性の高いワクチン接種は勧めないよう、科学に基づいた政策や報道をしていただきたい。